

## 社会・労働関係サイト探検(11)

OISR-Watch2000年3月13日号

二村 一夫

## 海外の学会サイト

ご承知の方も多いと思いますが、私はここ3年余り社会政策学会のサイト <http://oisr.org/sssp/> を担当してきました。

社会科学関係の学会のサイトのなかでは比較的早く発足したこともあり、わりあい内容豊富だと自画自賛しているのですが、皆さまからご覧になっていかがでしょうか？

昨年3月までは大原社研のサイトも担当していましたから、学会の方は手を抜いていたというわけでもありませんが、実際上あまり時間がとれませんでした。とくにリンク集は、研究所の「社会・労働関係リンク集」と競合するので、学会関係者中心のごく小規模なものにとどめていました。しかし研究所サイト、とくに「社会・労働関係リンク集」が私の手を離れたこともあって、最近になって「社会政策学会リンク集」に力をいれ始めました。

そこで、今回の探検は「社会政策学会リンク集」の材料集めを兼ねて海外の学会サイトを見て回り、「学会サイト」はどのような活動をしているのか、何かヒントを得たいと思っています。実は、前号の「社会・労働関係の国際会議情報」も、それを基にして社会政策学会のサイト内に「内外関連学会大会・研究会情報」欄を設けました。ここでは海外だけでなく、国内の学会大会や研究会などについても、随時新しい情報を追加しています。URLはつぎの通りですので、ご参照いただければ幸いです。

<http://oisr.org/sssp/ssslinks2.html>

また、本稿では国内の学会サイトについてはまったくふれず、海外の学会サイトについてもあまり多くの事例はあげていません。これについては、つぎの社会政策学会リンク集をご参照ください。

<http://oisr.org/sssp/ssslinksbroad.html>

まず全般的な印象から言うと、学会サイトは研究機関のサイトに比べ、内容量は少なく、更新頻度もそれほど多くないなど、かなり見劣りするものが多いように思います。学会の場合、日常的にメンテナンスする人がいないのが普通でしょうから、当然と言えば当然です。また、事務局の交代にともないURLの変更もほかのサイトより頻繁です。そのこともあってか、学会サイトにあるリンク集は繋がらない場合が少なくありません。

しかしアメリカの巨大学会、たとえばアメリカ社会学会やアメリカ政治学会、アメリカ歴史学会のような会員数1万数千人といった大組織になると、そのサイトはかなり充実しています。もっとも、これらの組織は日本の人文社会科学系の学会とは違って、専門職団体的性格を兼ね備えているからでもあります。

それらすべてについて探検する余裕はないので、今回はつぎの2学会を見ることにします。

アメリカ社会学会 (The American Sociological Association=ASA) <http://www.asanet.org/>

アメリカ政治学会 (American Political Science Association=APSA) <http://www.apsanet.org/>

私の独断と偏見で両者を評価すればもうこれは文句なしにASAに軍配をあげます。

それというのも、APSAは、どことなく企業サイトと似た印象があるのです。つまり、あえていえば「無意味な画像」を多く使い、見栄えを重視しているのです。これに対し、ASAはテキスト中心、内容中心で、とても分かりやすく、使いやすく出来ているのです。

両学会とも、会員数は1万3000人台の大学会で、会費は収入に比例した累進制をとっていますから、財政的にも豊かなのでしょう。どちらも、ホームページはおそらく専任スタッフによって維持されていると思われます。ASAを評価するのは、まず第1にオンライン機能が充実しているからです。ニューズレターをはじめ、入会申し込み、出版物の購入、大会への参加登録などが、いずれもオンラインで使えます。このほかにも会員限定のページがあり、そこではもっといろいろなサービスが提供されているようです。

ASAはつぎの41部会すべてが、独自で、あるいはASAサイトの一部としてホームページを設け、いずれもかなり豊富な内容をもっているようです。

Aging and the Life Course

Alcohol and Drugs

Asia and Asian America

Collective Behavior and Social Movements

Community and Urban Sociology

Comparative and Historical Sociology

Computers, Sociology and

Consumers, Commodities and Consumption

Crime, Law, and Deviance

Economic Sociology

Environment and Technology

Family

History of Sociology

International Migration

Latino/a Sociology

Marxist Sociology

Mathematical Sociology

Medical Sociology

Methodology

Organizations, Occupations, and Work

Peace, War, and Social Conflict

Political Sociology

Political Economy of the World Systems

Race, Gender, and Class

Racial and Ethnic Minorities

Rational Choice

Science, Knowledge, and Technology

Sex and Gender

Social Psychology

Sociological Practice

Sociology of Children

Sociology of Culture

Sociology of Education

Sociology of Emotions

Sociology of Law

Sociology of Mental Health

Sociology of Population

Sociology of Religion

Sociology of Sexualities

Theory

Undergraduate Education

またASAのホームページで注目されるのは、サイト全体の構成です。会員向け、学生向け、一般訪問者向けと、それぞれ異なった訪問者を予想し、その応じた情報を提供するようにしています。さきほど、専門職団体的性格と言いましたが、両学会とも、研究助成金や求人情報、さらには団体保険や提携カード、さらには提携レンタカーなど会員に対する特典benefitsを宣伝しているのです。

もちろん、海外の学会でもそれほど大規模ではないものは、ホームページも日本の学会のサイトとそれほど大きな違いはないように見えます。学会の自己紹介、規約、入会案内、会合予告、機関誌の目次や刊行物案内などといったところが主な内容です。

そうした中で注目されるのはアメリカ労働経済学会が運営している  
Labor and Population Economics Internet Seminarです。

<http://128.100.177.36/sole.html>

これは休暇期間を除き隔週1回特定のpaperを掲載し、これに参加者がコメントを加え、著者はそのコメントにリプライするというもので、インターネットを利用した学術交流の手段として注目されます。現在討論の対象となっているのは、トロント大学のGillian HamiltonとAloysius Siowの“Class, Gender and Marriage”です。

3月20日からはシカゴ大学のVictor Aguirregabiriaとマドリードのカルロス三世大学のCesar Alonso-Borregoの“Labor Contracts and Flexibility: Evidence from a Labor Market Reform in Spain”が、4月3日からは、カナダのサイモンフレーザー大学のBrian Krauthの“Social interactions, thresholds, and unemployment in neighborhoods”が討論の対象となることが予告されており、これらのpaperはすでに読むことができます。ご覧のとおり、アメリカだけでなく世界各国からpaperが投稿されています。

なお、このサイトでは、これまで掲載されたpaperの要旨を読み、PDFファイルでのフルテキストを

ダウンロードすることができ、ます。参考までにこの1年間に掲載されたペーパーのタイトルを掲げておきましょう。なお順序は掲載日時の逆順です。なお、この企てが始まったのは1998年の4月からです。

## 2000年

Feb 21: Promotion Tournament

Feb 7: Uncertainty and Labor Contract Durations

Jan 24: More on Marriage, Fertility, and the Distribution of Income

Jan 10: Earnings Growth among Young Less-Educated Business Owners

## 1999年

Nov 22: Role of Student Race and Ethnicity in Higher Education Admissions Since 1972

Nov 8: Inbreeding in Law School Hiring: Assessing the Performance of Faculty Hired from Within

Oct 25: The Effect of Coauthorship on the Productivity of Academic economists

Oct 11: Education, Work, and Crime: Theory and Evidence

September 27: Unemployment as a Social Norm: Psychological Evidence from Panel Data

September 13: Piece Rates, Fixed Wages and Incentives: Evidence from a Field Experiment

May 3: The Rybczynski Theorem, Factor-Price Equalization and Immigration: Evidence from US states

April 19: The Roles of Education, Skill and Parental Income in Determining Wages

April 5: Marriage and Fertility in a Catholic Society: 18th century Quebec

March 22: Beyond Becker: Training in Imperfect Labor Markets

March 8: Wages, Experience and Seniority

February 22: Affirmative Action Programs and the Job Search

Outcomes of Men and Women: Actual and Perceived Effects

なお3月10日現在、掲載されているpaperへのコメントはまだひとつもありません。ですから、いつでも活発に論議が展開されているというわけではないようです。しかし、インターネットの双方向性を利用した学会サイトのオンラインジャーナルのあり方の一例として参考になると思いました。

(にむら かずお・名誉研究員)

[Last Modified:2000.2.26]

Cannot Open Index File "/home/.sites/28/site1/web/cgi-bin/npc.cgi/counter/count.idx" since 2000.3.14

[OISR-Watch Columns\(Table of Contents\)](#) [次のページへ](#)

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)